

教 育 研 究 業 績

氏名 馬場 康宏

学位：教育学修士

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
心理学、教育学	教育心理学、保育内容	
主要担当授業科目	幼児と人間関係、人間関係領域指導法演習、青年心理学、教職実践演習、課題研究	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
① 「保育内容研究（人間関係）」の授業実践	平成13年4月～令和元年8月	平成13年4月より「保育内容研究（人間関係）」の授業において、適宜グループディスカッションやグループ演習課題を取り入れ、受講生の問題意識を高め、能動的な授業参加を促す実践をしている。
② 「幼児と人間関係」の授業実践	令和元年9月～現在	ICT活用の一環としてプロジェクターによる提示資料や映像教材を活用することで、受講生が保育に関する理論と実践の関連を理解しやすくなるよう工夫した取り組みを行っている。
③ 「人間関係領域指導法演習」の授業実践	令和2年4月～現在	アクティブ・ラーニングの一環として、授業にグループごとのディスカッションや演習課題に取り組む活動を取り入れることで、能動的な授業参加を促す工夫を行っている。
2 作成した教科書、教材		
① 保育士(保育)試験合格講座 第4巻 精神保健	平成14年5月	(全体概要) 保育士資格試験を受験する者を対象としてつくられたテキストのうち、精神保健の領域を扱った一巻である。内容構成は、小児の精神機能発達と精神保健、小児の生活環境と精神保健、小児各時期の精神保健、小児の心の健康障害、及び小児期の精神保健活動の各章からなる。(担当部分及び概要) pp22-23 「第3章 3 幼児期の精神保健」 幼児期の精神保健の観点から、幼児の身体運動能力、言語能力などの発達的特徴や幼児期に見られやすい問題行動とその対応についてまとめたものである。 (共著者：金城悟、阿部康之、田中一徳、佐藤記道、馬場康宏、永井伸幸、柿澤敏文、佐藤高博、佐藤将朗、大木みわ、暁平名勉)
② 教育心理学	平成14年11月	(全体概要) 大学・短期大学・専門学校における教職に関する科目「教育心理学」の教科書としてつくられたものである。内容は教育心理学の位置づけ、子どもの発達、パーソナリティ、学習、評価、教師と学級集団、障害児の心理などの基本的事項をまとめた構成になっている。 (担当部分及び概要) pp. 25-42 1章2～7 乳児期、幼児期(前期・後期)、児童期、思春期、青年期の各発達特徴と発達課題について基本的事項に触れてまとめたものである。 (編著者：佐藤泰正、海保博之、新井邦二郎、共著者：天貝由美子、石井詩都夫、宇津木誠小野瀬雅人、佐藤純、佐藤高博、佐藤記道、佐藤将朗、佐藤司、高見令英、中津山英子、馬場康宏、平山祐一郎、柳本雄次)
③ 幼児・児童期の教育心理学	平成15年9月	(全体概要) 幼児教育を学ぶ学生を対象として、主に幼児期、児童期とその関連について注目して構成された「教育心理学」のテキストである。

④ 保育者のたまごのための発達心理学	平成 23 年 4 月	<p>(担当部分概要) pp. 7-22 「第 2 章 幼児期・児童期と教育心理学の関わり」 「第 3 章 生命の誕生と発育」 幼児期・児童期と教育心理学のかかわりについて、また、乳幼児期の発達的特徴と養育者の関わりについてまとめたものである。 (共著者：福屋武人、馬場康宏、加藤千佐子、赤津純子、権藤桂子、古川聡、太田雅子、松岡陽子、佐藤淑子、石川隆行、林牧子、星野真由美、斉藤哲)</p> <p>(全体概要) 幼稚園や保育所などで乳幼児の保育や児童の教育に関わる仕事に将来従事しようとする者が、乳幼児期の発達について理解をふかめるためのテキストとして編集された。 (担当部分概要) pp. 28-40 「第 2 章 胎児期から新生児期」 胎児期からおよそ 1 歳までの発達的な特徴を、特に他者とのかかわりという観点からまとめたものである。 (共著者：新井邦二郎、藤枝静暁、馬場康宏、楯誠、森田満理子、安齋順子、堀科、松田侑子、羽柴継之助)</p>
⑤ 教育相談の理論と方法	平成 31 年 4 月	<p>全体概要) 文部科学省「教職課程コアカリキュラム」に基づいた「教育相談の理論及び方法」のテキストとして編集された。 (担当部分概要) pp62-71 「第 6 章 幼児期の発達課題と教育相談」 幼稚園教育要領に基づいた幼稚園教育の基本的な考え方、幼児期の発達特性、幼児期の教育相談の意義と発達支援のあり方をまとめた。 (共著者：会沢信彦、日瀨淳子、桑原千明、佐藤哲康、大島朗生、馬場康宏、梅津直子、遠藤久美子、田中將之、岩瀧大樹、小林麻子、原田友毛子、中村正巳、亀田秀子、水國照充)</p>
⑥ これからの保育内容	令和 3 年 7 月	<p>教職課程コアカリキュラム・モデルカリキュラムに基づいて、保育内容の最新動向を中心として幼児教育・保育分野の総合テキストとして編集された。 (担当部分概要) pp26-33 「第 1 章 第 3 節 人間関係領域」 幼稚園で幼児の人と関わる力を養う今日的な意義、小学校教育との接続、幼児の生活と遊びにおける自己主張・自己抑制の能力及び規範意識の育ち等についてまとめた。 (共著者：中村未緒子、岩城淳子、馬場康宏、山路千華、山野井貴浩、浅木尚実、荒井弘高、齋藤千明、今田政成、内山須美子、佐藤ちひろ、伊勢正明、浅田晃佑、有馬知江美、町田加代美、今里淳平)</p>
3 教育上の能力に関する大学等の評価 ① 学生による授業評価アンケート	平成 14 年～現在	<p>大学が FD 活動の一環として実施している学生による授業評価アンケート」を担当科目について受け、その結果を授業改善に生かしている。</p>
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
	平成 29 年 10 月	<p>埼玉県立桶川高等学校 2 年生を対象とした大学模擬授業（保育・幼児教育）の講師を務めた。</p>
5 その他 特記事項なし		
職 務 上 の 実 績 に 関 する 事 項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1) 幼稚園教諭第一種免許状	平成 4 年 3 月	(平 3 幼一第 1041 号)
2) 幼稚園教諭専修免許状	平成 6 年	(平 5 幼専第 1003 号)

	3月	
3)学校心理士(学校心理士認定運営機構)	平成18年11月	(103199号)
4)ガイダンス・カウンセラー (スクールカウンセリング推進協議会)	平成24年2月	(第12020173号)
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
① 財団法人短期大学基準協会 平成22年度 評価員	平成22年4月	財団法人短期大学基準協会による平成22年度第三者評価において評価員として研修を受け、評価を行った。
② 財団法人短期大学基準協会 平成24年度 評価員	平成24年4月	財団法人短期大学基準協会による平成24年度第三者評価において評価員として研修を受け、評価を行った。
③財団法人短期大学基準協会 平成26年度 評価員	平成26年4月	財団法人短期大学基準協会による平成26年度第三者評価において評価員として研修を受け、評価を行った。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1. 保育士(保母)試験合格講座 第4巻 精神保健 P22-P23 (再掲)	共著	平成14年5月	株式会社学文社	(全体概要) 保育士資格試験を受験する者を対象としてつくられたテキストのうち、精神保健の領域を扱った一巻である。内容構成は、小児の精神機能発達と精神保健、小児の生活環境と精神保健、小児各時期の精神保健、小児の心の健康障害、及び小児期の精神保健活動の各章からなる。(担当部分及び概要)pp22-23 「第3章 3 幼児期の精神保健」 幼児期の精神保健の観点から、幼児の身体運動能力、言語能力などの発達的特徴や幼児期に見られやすい問題行動とその対応についてまとめたものである。 (共著者：金城悟、阿部康之、田中一徳、佐藤記道、馬場康宏、永井伸幸、柿澤敏文、佐藤高博、佐藤将朗、大木みわ、暁平名勉)
2. 教育心理学 P25-P42 (再掲)	共著	平成14年11月	学芸図書株式会社	(全体概要) 大学・短期大学・専門学校における教職に関する科目「教育心理学」の教科書としてつくられたものである。内容は教育心理学の位置づけ、子どもの発達、パーソナリティ、学習、評価、教師と学級集団、障害児の心理などの基本的事項をまとめた構成になっている。 (担当部分及び概要)pp. 25-42 1章2~7 乳児期、幼児期(前期・後期)、児童期、思春期、青年期の各発達特徴と発達課題について基本的事項に触れてまとめたものである。 (編著者：佐藤泰正、海保博之、新井邦二郎、共著者：天貝由美子、石井詩都夫、宇津木誠 小野瀬雅人、佐藤純、佐藤高博、佐藤記道、佐藤将朗、佐藤司、高見令英、中津山英子、馬場康宏、平山祐一郎、柳本雄次)

<p>3. 幼児・児童期の教育心理学 P7-P22 (再掲)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 15 年 9 月</p>	<p>学術図書出版 社</p>	<p>(全体概要) 幼児教育を学ぶ学生を対象として、主に 幼児期、児童期とその関連について注目し て構成された「教育心理学」のテキストであ る。 (担当部分概要) pp. 7-22 「第 2 章 幼児期・児童期と教育心理学の関 わり」 「第 3 章 生命の誕生と発育」 幼児期・児童期と教育心理学のかかわり について、また、乳幼児期の発達の特徴と 養育者の関わりについてまとめたものであ る。 (共著者：福屋武人、馬場康宏、加藤千佐子、 赤津純子、権藤桂子、古川聡、太田雅子、 松岡陽子、佐藤淑子、石川隆行、林牧子、 星野真由美、斉藤哲)</p>
<p>4. 育児不安の国際比較 P46-P57</p>	<p>共著</p>	<p>平成 20 年 5 月</p>	<p>学文社</p>	<p>(全体概要) 本書は、母親・父親の育児に 関する意識や行動について、特に母親の育 児不安に注目して行なってきた一連の調査 研究の成果をまとめたものである。調査地 域は、日本の都心部や農村部、台北、ソウ ル、天津であり、国内の地域差、国際比較 を通して、育児不安の構造を明らかにして いる。 (担当部分概要) P46～P57 「第 1 章 第 3 節 育児に見られる地域格差」 日本の母親・父親の育児に関する意識や行 動についての調査結果から、都心部と農村 部を比較検討して、実態の差異に注目して 考察した。 (共著者：深谷昌志、開原久代、周建中、 深谷和子、三枝恵子、富山尚子、馬場康宏、 深谷野亜、朴珠鉉)</p>
<p>5. 保育者のたまごのための発 達心理学 P28-P40 (再 掲)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 23 年 4 月</p>		<p>(全体概要) 幼稚園や保育所などで乳幼児の保育や児 童の教育に関わる仕事に将来従事しようと する者が、乳幼児期の発達について理解を ふかめるためのテキストとして編集され た。 (担当部分概要) pp. 28-40 「第 2 章 胎児期から新生児期」 胎児期からおよそ 1 歳までの発達的な特 徴を、特に他者とのかかわりという観点か らまとめたものである。 (共著者：新井邦二郎、藤枝静暁、馬場康宏、 楯誠、森田満理子、安齋順子、堀科、松田 侑子、羽柴継之助)</p>

<p>6. 教育相談の理論と方法 (再掲)</p>	<p>共著</p>	<p>平成 31 年 4 月</p>	<p>北樹出版</p>	<p>(全体概要) 文部科学省「教職課程コアカリキュラム」に基づいた「教育相談の理論及び方法」のテキストとして編集された。 (担当部分概要) pp62-71 「第 6 章 幼児期の発達課題と教育相談」 幼稚園教育要領に基づいた幼稚園教育の基本的な考え方、幼児期の発達特性、幼児期の教育相談の意義と発達支援のあり方をまとめた。 (共著者：会沢信彦、日瀨淳子、桑原千明、佐藤哲康、大島朗生、<u>馬場康宏</u>、梅津直子、遠藤久美子、田中将之、岩瀧大樹、小林麻子、原田友毛子、中村正巳、亀田秀子、水國照充)</p>
<p>7. これからの保育内容 (再掲)</p>	<p>共著</p>	<p>令和 3 年 7 月</p>	<p>一藝社</p>	<p>教職課程コアカリキュラム・モデルカリキュラムに基づいて、保育内容の最新動向を中心として幼児教育・保育分野の総合テキストとして編集された。 (担当部分概要) pp26-33 「第 1 章 第 3 節 人間関係領域」 幼稚園で幼児の人と関わる力を養う今日的な意義、小学校教育との接続、幼児の生活と遊びにおける自己主張・自己抑制の能力及び規範意識の育ち等についてまとめた。 (共著者：中村未緒子、岩城淳子、<u>馬場康宏</u>、山路千華、山野井貴浩、浅木尚実、荒井弘高、齋藤千明、今田政成、内山須美子、佐藤ちひろ、伊勢正明、浅田晃佑、有馬知江美、町田加代美、今里淳平)</p>
<p>(学術論文)</p>				
<p>1. 幼児の対人関係と共感性の発達に関する研究 (修士論文)</p>	<p>単著</p>	<p>平成 6 年 3 月</p>	<p>埼玉大学</p>	<p>(全体概要) 幼児の共感性と①母親 (主たる養育者) の育児感情、②幼児の仲間関係、③幼児の愛着欲求の広がりとの関連を、調査・実験により明らかにし、共感性の発達を促す要因について検討した。実験場面において共感的であると評価された幼児は、実際の仲間関係においても、他者と満足感を共有したり、困っている仲間をなぐさめたりするなど評価され、円滑な対人関係における共感の役割の重要性が示され、また、共感性の発達には母親の育児感情が密接に関わっていることが実証された。</p>
<p>2. 母親の愛着スタイルと育児感情に関する研究</p>	<p>共著</p>	<p>平成 6 年 3 月</p>	<p>筑波大学発達臨床心理学研究 第 5 巻 P29～P37</p>	<p>(全体概要) 母親の IWM と、子育ての質としての育児感情との関係について検討した。愛着スタイルについては、心的表象としての概念である IWM によって説明されているが、個人内には複数の表象が構成され、そのバランスにより愛着のタイプが決定されると考える。母親の子育てに関する喜びなどは安定した愛着に支えられることが、また、対人場面での不安感など、不安定な愛着の要素は、子育ての疲労感・否定感に影響することが示唆された。 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能) (共著：首藤敏元、馬場康宏、鈴木亮子)</p>
<p>3. 母親の育児感情と幼児の社会的コンピテンスに関する研究</p>	<p>共著</p>	<p>平成 8 年 3 月</p>	<p>埼玉大学紀要教育学部 (教育学科)</p>	<p>(全体概要) 幼児の調和的な対人行動の側面と現在の母子関係との関係性について、具体的には母親の育児感情を測定し、幼児</p>

			第 44 卷 第 1 号 P53～P67	の共感、仲間関係との関係を検討した。安定型の育児感情を持つ母親の幼児は不安定型の母親の幼児よりも共感的である傾向が認められ、母親の育児感情の質が幼児の共感的反応に影響を与えることを示唆するものであったが、母親の育児感情と幼児の仲間関係とは有意に関係しておらず、今後の課題として幼児の仲間関係の測定方法を挙げた。 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能) (共著：首藤敏元、馬場康宏)
4. 嘔吐への不安を訴える児童の母親に対する援助過程	共著	平成 12 年 3 月	筑波大学発達臨床心理学研究 第 11 巻 P21～P26	(全体概要) 児童を対象とした教育相談の実践事例について問題の概要、援助の方法・過程を報告したものである。本事例では、嘔吐に対する不安を訴え母親と一緒に登校できなかった児童に対し、母子の相互作用に注目して援助を行った。母親が児童を肯定的に受け入れることができるようになる過程と児童の心が安定していく様子について示し、考察したものである。 (共著：馬場康宏、新井邦二郎)
5. 不登校状態に陥った優等生への援助過程	共著	平成 12 年 12 月	筑波大学発達臨床心理学研究 第 12 巻 P41～P47	(全体概要) 青年期の相談者を対象とした教育相談の実践事例であり、問題の概要、援助の方法・過程を報告したものである。本事例は、有名私立中学校で不登校となり、公立中学校に転校後も登校することができなかった男子生徒について、生徒が自身の人生観を再構成しながら登校への意欲を高め、登校できるようになるまでの援助過程について示し、考察したものである。 (共著：馬場康宏、新井邦二郎)
6. 林間学校に不安を示した不登校生徒への援助過程	共著	平成 13 年 12 月	筑波大学発達臨床心理学研究 第 13 巻 P31～P37	(全体概要) 青年期の相談者を対象とした教育相談の実践事例であり、問題の概要、援助の方法・過程を報告した。本事例の援助対象は、学年で行われる林間学校に参加することに抵抗感を感じ、それをきっかけにクラスメイトに会うのが怖くなり不登校傾向を示していた男子中学生であった。継続的な面接を通して、生徒自身が抵抗感の背景を意識化し、登校に向けて心理面・行動面での準備をし、そして実際に登校できるようになるまでの援助過程について示し、考察したものである。 (共著：馬場康宏、新井邦二郎)
7. 幼稚園における遊具としてのコンピュータ利用の試み(査読付)	共著	平成 17 年 8 月	情報教育 シンポジウム 2005 論文集 Vol. 2005 No. 8 pp. 99-106	(全体概要) 本研究では、幼児の遊びにおける人間関係の構築を妨げる、という幼稚園へのパソコン設置のマイナス面を排除するため、大画面ディスプレイと、幼児に扱いやすいタッチパネルを付けた環境を用意し、記憶・片付け・予測をテーマにしたゲームを試作した。パソコンが幼稚園の保育環境において、どの程度良質な遊びを提供しうるかについて検討している。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：大即洋子、澤田伸一、坂東宏和、馬場康宏、小野和)

8.	タッチパネル付き大画面ディスプレイを活用した幼稚園教育におけるパソコン利用の試み(査読付)	共著	平成18年1月	日本教育メディア学会 教育メディア研究 第12巻 第1号 pp. 21-30	(全体概要) タッチパネル付き大画面ディスプレイを接続したパソコンの利点と問題点について、幼稚園における観察結果より示し、考察している。パソコン利用により、人間関係の形成能力が低くなるという懸念を改善し、園児同士の関わりの機会をもったパソコン利用が可能になることが示唆された。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：坂東宏和、大即洋子、澤田伸一、 <u>馬場康宏</u> 、小野和)
9.	保育においてコンピュータを遊具のひとつとして利用する試み(査読付)	共著	平成19年10月	情報処理学会 論文誌 第48巻第10号 pp. 3415-3425	(全体概要) 幼稚園の保育環境において、コンピュータを遊具の1つとして幼児に提供する試みを行った。幼児の人との関わりを大切に考え、大画面ディスプレイとタッチパネルを用いた環境を用意した。身近なゲームを試作し、上記環境にて幼稚園で試用、観察を行った結果、遊具としてのコンピュータの可能性を見出すことが出来た。 (共同研究に付担当部分抽出不可能) (共著者：第即洋子、澤田伸一、坂東宏和、 <u>馬場康宏</u> 、小野和)
10.	保育者養成校に通う学生の「感性」に関する認識	共著	平成22年3月	東京成徳 短期大学紀要 第43号 pp31-36	(全体概要) 保育者養成課程に在籍する学生を対象として、「感性」という言葉をどのように捉えているか、使用頻度や関連すると考える分野、自分の感性に対する認識などについて調査・分析をした。統計的検定により、1年生より2年生の方が、有意に興味が高まっている分野があることも明らかにした。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者： <u>馬場康宏</u> 、宮下恭子、金城悟、武石仁美、杉本亜鈴)
11.	保育者養成校に通う学生のSD方による感性評価の分析	共著	平成22年3月	東京成徳 短期大学紀要 第43号 pp. 37-45	(全体概要) 「感性」の様相を明らかにするために、SD法を用いて保育者養成課程に在籍する学生を対象に感性調査を実施した。4種類の刺激画像に対して24の形容詞対で構成されたSD尺度に5段階評価で回答するよう求められた。統計的解析により「評価性」、「情緒性」、「活動性」と命名された3因子が抽出された。刺激画像の特性により感性の表出が異なることが明らかになり、また、感性の個人差の存在が示唆される結果となった。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：金城悟、宮下恭子、 <u>馬場康宏</u> 、武石仁美、杉本亜鈴)
12.	青年期の愛着スタイルと被援助志向性	単著	平成27年3月	東京成徳 短期大学紀要 第48号 pp. 47-54	(全体概要) 質問紙調査法により青年期の愛着スタイルと被援助志向性との関連を明らかにすることを目的とした分析を行った。ポジティブな他者観を形成していると考えられる者は、ネガティブな他者観を形成していると考えられる者より有意に被援助に対する肯定的態度が高いことが明らかになった。また、安定型の愛着スタイルを形成している者は、被援助に対する疑念や抵抗感は低く、ネガティブな自己観を形成していると考えられる型では、他者に対してより回避傾向の高い型で、被援助に対する疑念や抵抗感が高いことが明らかになった。

13. 幼稚園・保育実習に対する短期大学性の不安感	共著	平成 28 年 3 月	東京成徳 短期大学紀要 第 49 号 pp. 49-55	(全体概要) 短期大学性を対象とした幼稚園・保育実習に対する不安への調査結果から、共分散構造モデルによる多母集団同時分析により学年別の差異について検討した。「不安感」に対して、1 学年は「部分・責任実習」で、2 学年は「部分・責任実習」と「実習生適応」の因子で有意なパスが確認された。不安感及び不安感を規定する要因の構造化の可能性が示唆された。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：田中浩二、 <u>馬場康宏</u>)
14. 学生の幼稚園・保育実習に対する不安及び期待	共著	平成 28 年 3 月	東京成徳 短期大学紀要 第 49 号 pp. 77-88	(全体概要) 幼稚園・保育所実習に対して学生が実際に感じている不安・期待に基づいた質問紙を作成し、調査を実施した。因子分析により不安では 4 因子、期待では単因子構造が認められ、高い内的整合性も認められた。学年差の検討では、不安、期待とも 2 年生より 1 年生が高かった。また、1 年生は、初回実習目前に「子ども対応」と「実習生適応」不安が高くなり、期待は低減することが明らかになった。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者： <u>馬場康宏</u> 、田中浩二)
15. 保育士と小学校教職員による就学期の児童の姿に関する認識 一児童の基本的な生活習慣について一	共著	平成 29 年 3 月	東京成徳 短期大学紀要 第 50 号 pp41-52	(全体概要) S 市の公立保育所保育士と小学校で過去 3 年以内に 1 年生を担当した教職員・教務主任を対象として、「就学期の児童の姿に関する調査」を実施した。保育所保育指針の領域「健康」に相当する部分として児童の基本的な生活習慣に視点をあて、保育士と小学校教職員の同一年代の児童の姿に対する認識について分析した。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著：田中浩二、 <u>馬場康宏</u>)
16. 効果的な保小連携を促進するための方法に関する検討 一「安全に関する」保育士と小学校教職員の認識について一	共著	平成 29 年 10 月	東京成徳 短期大学紀要 第 51 号	保育士と小学校教職員の各々に、就学期の児童にできてほしいこと、および同一児童が含まれる学年を念頭に、実際にどの程度できているかについて調査を実施した。保育士と小学校教職員の児童の姿の捉え方を比較検討した。 (執筆担当：pp38、39)
17. 効果的な保小連携を促進するための課題の検討 一「人間関係」に関する保育士と小学校教職員の認識について一	共著	平成 29 年 10 月	東京成徳 短期大学紀要 第 51 号	保育士と小学校教職員の各々に、就学期の児童にできてほしいこと、および同一児童が含まれる学年を念頭に、実際にどの程度できているかについて調査を実施した。質問項目群「人間関係」では、両者とも共通する項目を大切と考えてはいるが、実際の児童の姿について保育士の方が小学校教職員よりできていると捉えていた。児童の姿の捉え方に、両者で隔たりがあることを明らかにした。 (執筆担当：pp:61 および 70-71) 著者： <u>馬場康宏</u> 、田中浩二
18. 保育士による就学期を見据えた保育内容に対する意識	共著	平成 31 年 3 月	東京成徳短期 大学紀要	保育所の保育内容がどの程度小学校を見据えて行われているのか、また、保育士の経

に関する研究			第 52 号	<p>験年数によってその程度が異なるのかについて分析した。経験年数が増えるほど見据える程度は高く、また、保育内容を独立して捉えている傾向が明らかになった。</p> <p>著者：田中浩二、馬場康宏、片桐恵子</p>
(学会発表)				
1. 母親の育児行動と育児不安の要因に関する考察	共著	平成 15 年 6 月	<p>日本子ども社会学会 第 10 回大会 抄録集 pp. 74-75</p>	<p>(全体概要) 大都市の小学校 1.2 年の子どもを持つ母親を対象として、育児行動や育児不安について調査した結果、大都市特有の育児不安の構造が検出された。子どもの対人関係の発達には、乳児期の養育者の関わりは大きく影響するが、本研究は、乳幼児期の親子の関係性を検討する上で基礎的な資料となる。</p> <p>(共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：神田和恵、三枝恵子、深谷野亜、<u>馬場康宏</u>、深谷昌志)</p>
2. 幼稚園と共同して行う幼稚園用ソフトウェア開発の試み	共著	平成 16 年 2 月	<p>日本教育メディア学会 研究会論集 No. 14 pp. 21-28</p>	<p>(全体概要) 保育者と共同で、大画面のプラズマディスプレイ上で動く、幼児が遊ぶことを目的としたパソコンのソフトウェアを作製した。大画面を用いることで、ソフトウェアを直接操作している幼児ばかりでなく、他の幼児もその遊びに参加できるように意図した点が特徴である。本研究では、ハードウェア、ソフトウェア、幼児の用紙とその関連について分析している。</p> <p>(共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：澤田伸一、坂東宏和、<u>馬場康宏</u>、小野和)</p>
3. 育児不安に関する国際比較調査(1)	共著	平成 16 年 6 月	<p>日本子ども社会学会 第 11 回大会 抄録集 pp. 30-33</p>	<p>(全体概要) 育児不安は社会・文化的要因が強く反映される現象であると考えられ、東京、ソウル、台北、チンタオ・フフホトの小学校 1.2 年の子どもを持つ親を対象として育児行動・意識と育児不安に関する調査を実施した。本研究では、国際比較という手法を用いることで、東京の母親の育児不安の実像をより明確に示した。</p> <p>(共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：三枝恵子、<u>馬場康宏</u>、深谷野亜、神田和恵、深谷昌志)</p>
4. 育児不安に関する国際比較調査(2)	共著	平成 16 年 6 月	<p>日本子ども社会学会 第 11 回大会 抄録集 p. 34</p>	<p>(全体概要) 育児不安には社会・文化的要因が強く反映される現象であると考えられ、東京、ソウル、台北、チンタオ、フフホトの小学校 1,2 年の子どもを持つ親を対象として育児行動・意識と育児不安に関する調査を実施した。本研究では、主に父親調査の結果に注目した。国際比較という手法を用いることで、東京の父親の父親としての自覚の少なさが特徴として明らかになった。</p> <p>(共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：深谷野亜、朴珠鉉、<u>馬場康宏</u>、三枝恵子、深谷昌志)</p>
5. 母親の育児不安の要因に関する研究	共著	平成 17 年 6 月	<p>日本子ども社会学会 第 12 回大会 抄録集</p>	<p>(全体概要) 東京都心部と東北農村部の小学校 1,2 年生の子どもを持つ母親に、育児不安に関する</p>

6. 父親の育児関与の構造に関する考察	共著	平成17年6月	pp. - 日本子ども社会学会 第12回大会 抄録集 pp. -	る調査を行った。本研究は、母親調査の結果について報告したものである。母親自身が育った家庭環境や母子関係と、現在の子育てに関連があることを明らかにした。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：三枝恵子、深谷野亜、 <u>馬場康宏</u> 、朴珠鉉、深谷昌志) (全体概要) 東京都心部と東北農村部の小学校1,2年生の子どもを持つ親に、育児不安に関する調査を行った。本研究では、父親調査の結果について報告したものである。子どもが小さい時の育児関与の程度と、現在の子どもとの良好な関係には正の相関があることが明らかになった。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：三枝恵子、深谷野亜、 <u>馬場康宏</u> 、深谷昌志) (全体概要)
7. 育児不安の構造に関する考察	共著	平成18年7月1日	日本子ども社会学会 第13回大会 抄録集 pp. 42-45	東京都心部の母親の育児不安が強い層と弱い層を比較し、育児行動や子育て意識の実態を明らかにした。また、東京都心部と東北農村部の父親調査の結果について、家庭、仕事、育児に関する行動や意識を比較し、報告したものである。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：三枝恵子、 <u>馬場康宏</u> 、深谷野亜、朴珠鉉、深谷昌志) (全体概要)
8. 韓国の母親の育児行動と意識から見える育児不安	共著	平成18年7月1日	日本子ども社会学会 第13回大会 抄録集 pp. 46-47	育児不安に関する日本の地域差の検討に使用した調査票を基盤として、韓国版の調査票を作成し、韓国都心部と韓国農村部における、母親、父親の育児に関する意識や行動について調査した。調査結果について示し、地域差の点から考察を報告した。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：三枝恵子、 <u>馬場康宏</u> 、深谷野亜、朴珠鉉、深谷昌志) (全体概要)
9. 父親の育児関与の構造	共著	平成19年6月30日	日本子ども社会学会 第14回大会 発表要旨集録 pp. 28-29	父親の育児関与について、東京都心部と東北農村部を対象として調査、さらに、東京、台北、ソウル、青島、フフホトでの実施した調査結果を比較して考察した。東京の父親の父親としての自覚の乏しさが問題であることが示唆された。 (共同研究につき担当部分抽出不可能性) (共著者：三枝恵子、 <u>馬場康宏</u> 、深谷野亜、深谷昌志) (全体概要)
10. 三都市(東京・ソウル・天津)の母親の育児行動と意識に関する考察	共著	平成19年7月1日	日本子ども社会学会 第14回大会 発表要旨集録 pp. 72-75	母親の育児不安を、母親の生育歴やキャリア、夫との関係性に注目して、その構造を明らかにした。また、日本の農村部と都市部、さらに、ソウル、天津、台北における調査結果を比較しながら、東京の母親の育児不安の特徴を明らかにした。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：深谷野亜、朴珠鉉、 <u>馬場康宏</u> 、三枝恵子、深谷昌志) (全体概要)
11. 子どもの感受性を育む表現教育プログラム開発に関する研究(1) 一学生の感性に関する意識調査	共著	平成21年4月	日本保育学会 第62回大会 発表論文集 pp. 628	幼稚園教諭の養成課程における、表現教育プログラム開発を念頭においた基礎的な研究である。養成課程在学学生(短大生)を対

<p>12. こどもの感性を育む方言教育プログラム開発に関する研究(2) —SD法による感性評価の分析—</p>	<p>共著</p>	<p>平成21年4月</p>	<p>日本保育学会第62回大会発表論文集 pp. 629</p>	<p>称として、「感性」という言葉をどのように捉えるか、言葉としての使用頻度や関連すると考える分野、自分の感性に対する認識などについて調査を実施・分析して、調査対象者の意識を明らかにした。また、統計的検定により、1年生より2年生の方が、有意に興味が高まっている分野があることも明らかにした。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：馬場康宏、宮下恭子、金城悟、武石仁美、杉本亜鈴)</p> <p>(全体概要) 幼稚園教諭の養成課程における、表現教育プログラム開発を念頭においた基礎的な研究である。本研究では、「感性」の様相を明らかにするために、SD法を用いて幼稚園教諭養成課程に在籍する学生(短大生)を対象に感性調査を実施した。4種類の刺激画像に対して24の形容詞対で構成されたSD尺度に5段階評価で回答するよう求めた。統計的解析により「評価性」、「情緒性」、「活動性」と命名された3因子が抽出された。刺激画像の特性により感性の表出が異なることが明らかになり、また、感性の個人差の存在が示唆される結果となった。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：馬場康宏、宮下恭子、金城悟、武石仁美、杉本亜鈴)</p>
<p>(その他)</p> <p>1. 幼児の対人関係と共感性の発達に関する研究</p> <p>2. さわやか相談室について</p> <p>3. さわやか相談室の様子</p>	<p>単著</p> <p>単著</p> <p>単著</p>	<p>平成6年3月</p> <p>平成11年3月</p> <p>平成12年9月</p>	<p>埼玉大学大学院教育学研究科 修士論文抄録 第3号 pp. 20-21</p> <p>研究紀要 第17号 (浦和市立内谷中学校) pp. 109-110</p> <p>浦和教育 137号 (浦和市教育委員会)</p>	<p>(全体概要) 修士論文の要旨をまとめた。幼児の共感性と①母親(主たる養育者)の育児感情、②幼児の仲間関係、③幼児の愛着欲求の広がりとの関連を調査・実験により明らかにし、共感性の発達を促す要因について検討した。実験場面において共感的であると評価された幼児は、実際の仲間関係においても、他者と満足感を共有したり、困っている仲間をなぐさめたりするなど評価され、円滑な対人関係における共感の役割の重要性が示され、また、共感性の発達には母親の育児感情が密接にかかわっていることが実証された。</p> <p>(全体概要) 埼玉県は、平成8年度から「いじめ・不登校問題対策事業」に基づき、県内各中学校にさわやか相談室の設置、相談員の配置をすすめた。目的は地域社会における教育相談体制の確立である。しかし、相談室の設置、相談員の配置が行われた教育現場としても、初年度は戸惑いも多い。児童・青年期を対象とした教育相談室の運営状況や来室者の実態、課題について報告した。</p> <p>(全体概要) さわやか相談室は、埼玉県の「いじめ・不登校問題対策事業」に基づき、地域社会における教育相談体制の確立を目的として、公立中学校内に設置された。設置3年度目の</p>

4. 育児不安に関する地域差の検討	共著	平成 15 年 3 月	育児不安の構造(4) (東京成徳短期大学) I 章 pp15-22	運営状況、来室者の様子、相談員以外の教職員との連携あり方を、その効果を交えて示した。 (全体概要) 都心部・都市周辺部・農村部の小学校 1.2 年の子どもを持つ親を対象として、育児行動・意識と育児不安との関連について調査し、地域差について検討した。都心部には大都市特有の育児不安の構造が見出された。 (共同研究につき担当部分抽出不可能)
5. 国際比較からみる日本の父親像	共著	平成 16 年 3 月	育児不安の構造(5) (東京成徳短期大学) V 章 pp. 85-89	(全体概要) 育児不安には社会・文化的要因が強く反映されている現象であると考えられ、東京、ソウル、台北、チンタオ、フフホトの小学校 1、2 年の子どもを持つ親を対象として育児行動・意識と育児不安に関する調査を実施した。本報告書(V 章 1 節)では、主に父親調査の結果に注目し、国際比較をすることで、東京の父親の父親としての自覚の少なさを特徴として明らかにした。 (共同研究につき担当部分抽出不可能)
6. 東京都心部・東北農村部における地域差の検討	共著	平成 17 年 3 月	育児不安の構造(東京成徳大学) VI 章 pp68-78	(全体概要) 東京都心部と東北農村部の小学校 1.2 年の子どもを持つ親に、育児不安に関する調査を行った。本報告書(IV 章)では、父親調査結果について報告した。東京都心部の父親は東北農村部の父親に比べ、家庭にいる時間や家族との関わりが少なく、仕事中心の生活をしていることが明らかになった。大都市型の育児不安の背景を考える上で重要な示唆となった。 (共同研究につき担当部分抽出不可能)
7. 大都市の育児と山村の育児	共著	平成 18 年 3 月	育児不安の構造に関する考察 (東京成徳大学) 子ども学部年報 Vol. 3 pp. 24-32	(全体概要) 育児に関する意識や行動と育児不安の関連について、国際比較、国内地域差の比較を通して考察している。本章(第 3 章)では、東京都心部と東北農村部の父親調査の結果について、家庭、仕事、育児に関する行動や意識を比較し、報告したものである。仕事中心の生活をしている東京都心部の父親の姿が明らかになった。 (共同研究につき担当部分抽出不可能)
8. 大都市の育児と山村の育児	共著	平成 19 年 3 月	育児不安の構造に関する国際比較研究(中間報告) (東京成徳大学) 子ども学部年報 Vol. 6	(全体概要) 育児に関する意識や行動と育児不安の関連について、国際比較、国内地域差の比較を通じて考察している。本節(II 章-2)では、東京都心部と東北農村部父親調査の結果について、家庭、仕事、育児に関する行動や意識を比較し、報告したものである。仕事中心の生活をしている東京都心部の父親の姿が明らかになった。 (共同研究につき担当部分抽出不可能)
9. こんなとき、どうする？—親の財布からお金をとって買い物をしているらしい—	単著	平成 29 年 6 月	児童心理 6 月号 第 71 巻 8 号 金子書房 (5 ページ)	(全体概要) 雑誌「児童心理」。 特集テーマは「お金と子ども」。お金をめぐる子どもの世界について学校や家庭で、金銭感覚や勤労観をどう育てられるかを考える内容であった。 (担当執筆部分：pp:103-107) 担当テーマ「子どもが親の財布からお金をとって買い物をしているらしい」。対処方法

				について親の気持ちや基本的な心構え、幼稚園・小学校教育による子どもの規範意識や道徳性の育ち、今時の子どもを取り巻く環境に注目した助言。
(競争的資金)				
1. 文部科学省科学研究費補助金・基礎研究(C) 「ペン入力デバイスを用いた幼稚園教育の情報化」課題番号：14580319		平成14年度 平成15年度		(全体概要) パソコンへの入力手段としてペン入力デバイスを用い、幼児が容易に操作できるよう配慮した教材の開発・評価、および、パソコン操作が苦手な先生の支援を通じて、幼稚園教育の情報化を推進する方法について研究した。 (共同研究につき本人担当部分抽出不可) (共著者：小野和) (研究分担者：馬場康宏 澤田伸一、坂東宏和)
2. 文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(C) 「ペン入力デバイスを用いた保育現場でのパソコン活用に関する研究」課題番号：16500495		平成16年度 平成17年度		(全体概要) 本研究は、従来から行ってきた保育現場におけるPC活用に関する調査や幼児用ソフトウェアの評価に基づき、さらに幼児が扱いやすく楽しく遊べるソフトウェアを実現すること、および、ペン入力デバイスを活用した教員用ソフトウェアを試作し幼稚園の情報化を推進することを目的として実施した。 (共同研究につき本人担当部分抽出不可) (研究代表者：小野和、馬場康宏 研究分担者：坂東宏和、大即洋子)
3. 文部科学省科学研究費補助金・基盤研究(B) 「「育児不安」に関する国際比較研究」 課題番号：17300231		平成17年度 平成18年度 平成19年度 平成20年度		(全体概要) 本研究は日本で見られる「育児不安」が、他の社会でも存在するのかを国際比較調査を通して明らかにすることを目的とする。調査結果によると、比較した5地域の中で、それぞれの都市に固有の育児の問題が見られるが、日本的な意味での不安は見られなかった。 (共同研究につき本人担当部分抽出不可) (研究代表者：深谷昌志 研究分担者：開原久代、今井和子、深谷和子、周建中 研究連携者：馬場康宏、萩原元昭、富山尚子 研究協力者：李珠絹、李光衡)
研究連携者				
(研究発表)				
1. ペンインターフェイスを利用した幼稚園教育の情報化の試み	共著	平成14年10月	コンピュータと教育 Vol. 2002 No. 96 (情報処理学会 研究報告)	(全体概要) 小中学校ではパソコンを使った授業が盛んに行われている。幼児教育の場においても、保育環境の一部としてパソコンを設置する園が現れ始めた。本研究では、幼児期という発達段階に応じたインターフェイスが必要であるという考えに立ち、ペン入力デバイスを使うと言う事でパソコンを操作しやすい環境を構築することを考えた。また、幼児が楽しく遊べるソフトウェアの開発を試み、幼稚園における情報教育の可能性を検討している。 (共同研究につき本人担当部分抽出不可) (共著者：澤田伸一、坂東宏和、馬場康宏、小野和)
2. 幼児に適したペンインターフェイスの操作に関する一考察	共著	平成15年12月	コンピュータと教育 Vol. 2003	(全体概要) 幼児が簡単に楽しく遊べるソフトウェア

<p>3. 大画面とタッチパネルの環境に適した幼児向けソフトウェアの試作</p>	<p>共著</p>	<p>平成16年2月</p>	<p>No. 123 (情報処理学会 研究報告) pp. 9-16</p> <p>コンピュータと教育 Vol. 2004 No. 13 (情報処理学会 研究報告) pp. 9-16</p>	<p>の試作をし、幼児がタッチパネル付き大型ディスプレイで遊ぶ場合と、タブレットパソコンで遊ぶ場合には、操作環境の違いが、幼児の好む操作に及ぼす影響について調査し、発達段階やハードウェア環境との関連について考察した。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：澤田信一、坂東宏和、<u>馬場康宏</u>、小野和)</p> <p>(全体概要) 幼児が簡単に楽しく遊べるソフトウェアの試作を行った。ペン入力デバイスとして、画面の表面にタッチパネルを貼った大型のプラズマディスプレイを用意し、ソフトウェアを評価した。本研究では、タッチパネルで操作する大画面緩急に適した幼児用ソフトウェアについて検討している。 (共同研究につき本人担当部分抽出不可能) (共著者：澤田伸一、坂東宏和、<u>馬場康宏</u>、小野和)</p>
<p>4. 幼稚園における遊具としてのコンピュータ利用の試み</p>	<p>共著</p>	<p>平成17年4月</p>	<p>コンピュータと教育 Vol. 2005 No. 36 (情報処理学会 研究報告) pp. 9-16</p>	<p>(全体概要) 本研究では、幼児の遊びにおける人間関係の構築を妨げる、という幼稚園へのパソコン設置のマイナス面を排除するため、大画面ディスプレイと幼児に扱いやすいタッチパネルを付けた環境を用意し記憶・片付け・予測をテーマにしたゲームを試作した。パソコンが幼稚園の保育環境において、どの程度良質な遊びを提供しうるかについて検討している。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：大即洋子、澤田伸一、坂東宏和、<u>馬場康宏</u>、小野和)</p>
<p>5. RFID を用いた幼稚園における活動的な遊びを支援するツールの設計と試作</p>	<p>共著</p>	<p>平成18年7月8日</p>	<p>情報処理学会 第85回 コンピュータ と教育研究会 pp. 41-48</p>	<p>(全体概要) 幼稚園の活動的な遊びにおける保育者の負担を軽減することを目的とした幼稚園教育支援ツールを設計、試作した。具体的には、園児がヒントの地図を基に宝物を探し出す「宝探しゲーム」を題材とした。教諭と園児から肯定的な意見を得られた。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：坂東宏和、佐藤仁美、大即洋子、<u>馬場康宏</u>、澤田信一、小野和)</p>
<p>6. 幼児の活動的な遊びを支援する RFID を用いたソフトウェアの試作と観察</p>	<p>共著</p>	<p>平成19年10月</p>	<p>情報処理学会 研究報告 2007-CE-91 pp. 61-68</p>	<p>(全体概要) 幼児の活動的な遊びを支援する RFID を用いたツールの設計・試作・観察を行った。観察の検討により新しい体験の機会を提供できる可能性が示唆された。 (共同研究につき担当部分抽出不可能) (共著者：大即洋子、坂東宏和、<u>馬場康宏</u>、小野和)</p>